

令和4年度に評価を行う分野横断的な政策について

厚生労働省政策統括官(総合政策担当)付
政策立案・評価担当参事官室

令和4年度に評価を行う分野横断的な政策 ※令和4年3月会議資料

- 近年では、複合的な課題を抱える対象者層に対して、複数の施策が連携してアプローチするケースが増加。
- 第5期基本計画期間は、複数の施策目標にまたがる「分野横断的な課題」の進捗状況を評価する取組を新たに行う予定。
- 評価書は、毎年度末の有識者会議で審議予定。今回は、令和4年度末に評価を行う政策(案)についてご意見を伺うもの。

テーマ案：就職氷河期世代への支援

1. 背景

- ・就職氷河期世代は概ね平成5(1993)年～平成16(2004)年に学校卒業期を迎えた世代を指し、雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った世代であり、希望する就職ができず、現在も、不本意ながら不安定な仕事に就いている、無業の状態にあるなど、様々な課題に直面している方がいる。
- ・「経済財政政策と改革の基本方針2019」(令和元年6月21日閣議決定)に盛り込まれた「就職氷河期世代支援プログラム」は、**令和2年度からの3年間を集中的に取り組みべき期間と定めている。**
- ・同プログラムを踏まえた具体的な施策は、「就職氷河期世代支援に関する行動計画」に記載されており、厚生労働省も、同計画に基づき各種取組を実施。

3. テーマの提案

- ・ **就職氷河期世代の方の状況が多様である(※)ため、複数の施策が連携し、取組を実施している状況。**
※ 不安的な就労状態にある方(不本意非正規)、長期にわたり無業の状態にある方、社会参加に向けた支援を必要とする方(ひきこもり)
- ・ 「就職氷河期世代支援プログラム」では、現状より良い処遇、そもそも働くことや社会参加を促す中で、**就職氷河期世代の正規雇用者を30万人増加させることを目指している。**
- ・ 上記目標は厚労省関係の政策だけでなく、他省庁の政策と連携して目指すべき目標であるが、**厚労省関係の各種施策がどの程度有効に機能しているか等を分野横断的に評価してはどうか。**
- ・ **評価結果は、多様な事情を抱える就職氷河期世代への支援を継続的に実施していく上での政策改善につなげることとしてはどうか。**

2. 政策内容(厚生労働省関係)

(1) 相談、教育訓練から就職、定着まで切れ目のない支援

- ・ハローワークの専門窓口の体制拡充、担当者によるチーム支援
- ・就職氷河期世代の方向けの「短期資格等習得コース」
- ・採用企業側の受入機会の増加につながる環境整備(各種助成金)
- ・民間事業者のノウハウを活かした不安定就労者の就職・定着支援 等

(2) 個々人の状況に合わせた、より丁寧な寄り添い支援

(アウトリーチの展開)

- ・アウトリーチ等の充実による自立相談支援の機能強化
- ・ひきこもりに関する地域社会に向けた普及啓発と情報発信の実施
- ・地域若者サポートステーションにおける就職氷河期世代の無業者の支援

(支援の輪の拡大)

- ・身近な基礎自治体におけるひきこもり支援の充実
- ・ひきこもり支援に携わる人材の養成研修
- ・8050等の複合的な課題を抱える世帯の包括的な支援の推進等
- ・地域における就労体験・就労訓練先の開拓・マッチング
- ・就労準備支援事業等の広域的实施による実施体制の整備促進
- ・農業分野等との連携強化モデル事業
- ・技能修得期間における生活福祉資金貸付の推進

(3) プラットフォームを核とした新たな連携の推進

- ・就職氷河期世代活躍支援都道府県プラットフォームを活用した支援
- ・都道府県プラットフォームの事務局となる都道府県労働局に就職支援コーディネーター(人材開発支援分)を配置
- ・都道府県による市町村プラットフォーム設置・運営の支援
- ・就職氷河期世代等に対する積極的な広報の実施

分野横断的に実施している政策の評価について

- **第5期基本計画期間では、複数の施策目標にまたがる「分野横断的な課題」に対する政策の評価を行い、複合的な課題を抱える方への継続的な支援の効果的・効率的実施に資するような政策改善につなげる取組みを行う。**
- 令和4年度は「就職氷河期世代への支援」をテーマとして取り上げるが、就職氷河期世代支援については、令和2年度からの3年間を集中的に取り組むべき期間としていたが、令和2(2020)年に入ってから新型コロナウイルス感染症が拡大し、雇用情勢が厳しくなる中、正規雇用者30万人増やす目標の進捗については、令和元(2019)年から令和3(2021)年にかけて3万人に増加にとどまった。
- そのため、3年間の集中取組期間を「第一ステージ」と捉え、令和5年度からの2年間はこれまでの施策の効果も検証の上、効果的・効率的な支援を実施し、成果を積み上げる「第二ステージ」と位置付け、正規の雇用者を30万人増やすことを目指すこととされている。
- 就職氷河期世代支援策の実施状況と今後の取組については、内閣官房就職氷河期世代支援推進室にて、各支援策の実施状況等を幅広く取りまとめている。
- そこで、厚生労働省で実施している就職氷河期世代支援策のうち、**特に地域の複数の機関が連携して支援を行う際のポイントを示したい。**

1. 複数機関が連携した効果的な支援とは何か

【当事者の視点】



- ① 入口としてどの機関を利用した場合でも、状況・状態に合わせた適切な機関につながり、支援(専門的な支援も含む。以下同じ。)を受けられること。
➡ 困っている当事者がどこに聞けばよいのか分からない、たらい回しになることを回避。
- ② 状況・状態の変化があった場合には、改めてアセスメントが行われ、課題に応じた必要な支援を受けられること。また、他機関への橋渡しが、本人負担ではなく、スムーズに行われること。
➡ 一定程度時間を要するため、表面的には変化が見えにくい場合もある。支援機関が変わる場合には担当者間で適切な引継ぎにより、当事者の負担を減らす。
- ③ 進路決定後も定着に不安がある場合等は、必要に応じた支援を受けられること。
➡ 右肩上がりの変化ばかりではない。行きつ戻りつしながら定着を目指す。

【関係機関に求められること】

- ① 各機関の役割分担を明確にし、お互いが認識
- ② 他機関へのリファーをしやすい関係構築
- ③ 当事者の状況・状態に応じて、合同でケース会議を開催し、どの機関でどのような支援を行うかを共有
- ④ 支援の中断予防や正確な状況共有のため、他機関へのリファーに際しては担当者間で情報共有(≒②)
- ⑤ ケースに応じて出口後にフォローする機関を関係者間であらかじめ決めておき、問題等が起きそうな場合は事前にフォロー。必要に応じて、関係者間で情報共有(≒③)
- ⑥ 各機関の担当者が変わっても①～⑤が恒常的にワークするようなスキームづくり

これらをすることで「効果的な支援」となる！
(実質的・恒常的・持続的な連携)

実質的・恒常的・持続的な連携は
どのように構築するのか？



評価書の構成

1. 総合評価書におけるフォーカス

- 就職氷河期世代支援として実施している施策は多岐にわたるが、各施策同士の関係性に着目すると、各種助成金による支援や既存事業の要件緩和等については、当該施策の実施状況の評価(≒内閣官房で実施しているもの)で足りていると思われる。
- 一方で、ひきこもり支援のように、個々人の状況に合わせた息の長い支援を行う施策は、定量的な評価だけでは捉えきれない部分がある。
- サポステの利用者も、いったん就職したものの、職場や仕事に馴染めない等の理由で離職してしまい、かつ、直ちに求職活動を行うことが難しい方を中心に支援を行っている。そのため、定量的評価だけでは必ずしも施策の進捗や深まりを把握できないのではないか。
- また、これらの支援に当たっては、「地域の複数の機関の連携」が特に求められるが、地域ごとの差異はあるものの、「実質的・恒常的・持続的な連携」を実現することが施策を進める上での重要なポイントになると考えられる。

➡ 「身近な基礎自治体におけるひきこもり支援」と「サポステにおける就職氷河期世代の無業者支援」を取り上げ、上記の点から分析する

2. 施策を取り巻く状況と取組内容

- 中高年のひきこもりの全国調査(H30年度 内閣府調査)、江戸川区ひきこもり実態調査結果(R3年度 江戸川区)等
- 施策概要、全国レベルの施策の進捗状況(主にアウトプット指標)

3. 個々人の状況に合わせた、より丁寧な寄り添い支援のための効果的な連携に向けて～事例分析から～

《問題意識》

- ・ 地域の関係機関の連携については、「顔の見える関係」の構築等が効果的と言われることが多いが、①どのような機関と、②どのようにして、関係を構築しているのか。また、個々の担当者に寄らず、そのようなスキームをどのように構築したのか(≒連携に至るプロセス)。
 - ・ また、③どのような時に、④どのような頻度で連絡をしているかの目安や実績(≒連携の内容)。
 - ・ 一過性でなく担当者が変わっても連携が維持されるための工夫(≒恒常的な連携に向けた取組の有無)
 - ・ 関係機関との連携によるメリットや実績の変化(≒連携の効果)
- ひきこもり支援については、岩手県北上市の取組を、サポステによる支援については、よこはまサポートステーションの担当者に、上記問題意識に沿って、意見交換を実施。
 - 意見交換結果をもとに、地域の複数の機関が連携して支援を行う際のポイントと考えられる点を抽出し、有識者会議での議論を経て、最終的な評価書として取りまとめる。